

# ことぶき共同診療所だより

## 第 24 号

2007 年 11 月 24 日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F

電話とファックス 045-651-2305

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

## 目次

2007 年も、あとわずか 今年後半を振り返って……	鈴木 伸
鍼灸院より —音楽は好きですか?—	新井 育子
6・14 学習会	編集部
“診療室から” (20) —ことぶき「コンビニ」診療所???—	
	天田 大輔
夏合宿 —泳ぎました—	山本 重則
寿町地域ニュース・あらかると(2007年5月~11月)	寿町関係資料室
診療所日誌	矢島 雅子
共同診療所・鍼灸院ガイド	



## 2007年も、あとわずが 今年後半を振り返って

早いもので、もう2007年もあとわずかとなりました。診療所での今年後半の出来事を簡単に振り返ってみたいと思います。

### 【デイケア・稲子旅行】

7月28日～30日に、毎年恒例のデイケアの稲子旅行がありました。今年はバスを1台チャーターする初の試みでしたが、メンバーさんもスタッフもバスのなかで歌を歌ったり、楽しく交流することができ、又、スタッフにとっても運転の気苦労もないため、好評でした。もちろん、恒例のバーベキューや「川遊び」も好評でした。

### 【恒例夏の伊豆合宿】

8月18、19日は伊豆高原にて、診療所スタッフおよび家族による合宿が行われました。初日の学習会では、田中院長により、神奈川県精神医療に尽力され、北海道につるい養生邑と

いう治療共同体を作る志半ばで亡くなられた精神科の故宮田國男先生のお話がありました。二日目の学習会では、内科天田DrによるAED講習会が行われ、急変した患者への対応をAEDデモ機、およびダミー人形を使いながら実践的に学習しました。もちろん(笑)、夜の宴、恒例の花火大会、蟹とりなどもおこなわれ、楽しく充実した時間をすごしました。

### 【第6回診療所大運動会】

10月18日、第6回運動会が吉浜町公園にて開催されました。ボランティアを含めて総勢70人を超える大

所帯となり、今年よりアルクチーム vs 診療所チームという対抗戦形式で優勝カップをかけて行われました。大きなケガも無く、無事に終了。栄えある第1回優勝杯はアルクチームに送られました。

イラスト lkuko arai



【土屋洋子先生きたる】

10月から毎週金曜日精神科・内科の土屋洋子先生が来ていただくことになりました。先生は最近まで精神科病院にお勤めでしたが、当初は内科、心療内科を専門とされており、内科、精神科の合併症を抱える方の多い当院にとっては、心強い限りです。

尚、今後も医師、看護師の募集を行っていきますので、ともにドヤ街の地域医療を一緒に担っていただける方は、是非ご一報お待ちしております。

【寿町ドヤ街3号「寿町は今」の刊行】

当院の資料室より、10月に「寿町ドヤ街3号『寿町は今』」が刊行されました。現在寿町のなかで活動を行っているアルコール依存症自助グループ、ヘルパー、訪問看護師、当院看護師、引越・清掃事業、資料室等、多様な視点から、現場での問題点、分析、展望、が語られています。紙面の関係で詳細はお伝えできませんが、ぜひ、手にとってお読みください（配布は無料！）。ご希望の方は、当院資料室までお問い合わせください。

（鈴木 伸）

### 寿町ドヤ街 第3号（寿町は今）

内容：

第3号では、「寿町は今」をテーマに、アルコール依存症者の自助グループ、訪問看護、訪問介護、DOTS、「やる事」作り、食事配達についての地域での取り組みを現状報告しています。どのような経緯、思いがあって寿町に関わるようになったのか、どのような観点から活動や仕事を進めているのか、現状はどのようになっているのかなどが見えてきます。

#### 目次

まえがき 松本一郎（寿町関係資料室）

#### 1. 地域の取り組みから

(1) 寿地区とアルコール問題 村田由夫（寿福祉センター）

(2) コスモス寿の訪問看護からみた寿町住民の暮らし 西村料美（訪問看護ステーション・コスモス寿）

(3) 訪問介護事業所からみた寿地区 梅田達也（ことぶき介護）

(4) ことぶき共同診療所におけるDOTSの現状 矢島雅子（ことぶき共同診療所）

(5) 寿町で障がいを持つ住人の「やる事」創出にむけて 大平正巳（ことぶき共同診療所）

#### 2. 研究ノート

寿町簡易宿泊所街で暮らす人々の在宅生活を支える食事配達の現状 松本一郎（寿町関係資料室）

#### 3. 付録 参考写真

おわりに 田中俊夫（ことぶき共同診療所）

## 鍼灸院より - 音楽は好きですか? -

今回は鍼灸とは少し離れたお話を…。突然ですが、みなさんはどんな音楽が好きですか？実は最近、患者さん達の何人かにこの質問をしてみました。どうしてこんな事を聞いてみようかと思ったのかと言うと、治療の時、自分の好きなCDやカセットを持ってくる患者さんがいらっしゃるのですが“ここに来て音楽を聴くのが楽しみ”と言っていたので、(鍼灸自体は楽しみなのかは不明)もしかして他の患者さんも、好きな音楽を聴きながら治療すればもっとリラックスしてもらえるのかなぁと思ったからでした。

そういえば毎週火曜日のNHKの歌番組が一番の楽しみだと言っている患者さんもいて、結構みなさん音楽は好きなのかもしれませんね。普段の鍼灸院はラジオのFMを流したり“私の”好きな音楽を流したりしています。好きな音楽を聴きながらの治療は力みすぎず集中できていのように感じていました。しかし、先程の患者さんの言葉を聞いて、何で患者さんの好みを今まで聞かなかったのかと反省したのでした。

考えてみれば、年代も性別も育ってきた環境も違います。きっと好きな音楽は違うはず。まだ全員には聞いていないのですが、その結果を発表いたします。多



かったのは演歌！一度も流した事はありません！！(ごめんなさい)天童よしみさん、前川清さん、キムヨンジャさんなど。そしてジャズの方も(たまに流します。鍼灸院がサロン風になります)。すこし若い年代になるとホイットニーヒューストン、ローリングストーンズ、イーグルスと洋楽も多くなります。やっぱり“心にしみる”とか“懐かしい”というのがポイントみたいです。

音にも“気”というものがあります。心地よい場にする為にとっても大切なものだと思っています。本当ならばヒーリングミュージックなんかを流すのがいいのかなとも思いましたが、ここはなんといってもことぶき共同鍼灸院。大音量で演歌を流すのもいいのかなと思っています。もしそんな音が流れていたら一緒に日本人の心を感じて涙して下さい。まずは演歌のCDを手に入れなければ…。(新井 育子)

## 6・14 学 習 会

3月に開かれた学習会に続いて、6月14日に当所デイケアを会場として今年2回目の学習会が開かれました。

報告者は田中俊夫さんです。学習会のために書き下ろされた原稿（A4版6頁の「ことぶき地区の歴史」、およびA4版8頁にわたる「概略寿町運動史」）が配られ、参加者がリレーで読み上げながら進行了ました。以下、当日のメイン報告であった「運動史」について簡単にご報告します。

1950年代後半から60年代初頭までは、連合町内会や簡易宿泊所組合はあったが、運動が「何もなかった時期」でありました。その後1960年代前半頃から、民生委員、麻薬相談員、ロータリークラブの活躍、他方で、行政対応としての中民生安定所による夜間街頭相談（62年3月～）、青少年相談センター（63年9月～）がありました。

60年代中盤になってくると、子供会“ぼっこ”、不就学児・長欠児を支える寿学級、寿保育園（65年4月～）、寿生活館開設（65年6月～）と活動や施策の拡大が続きます。田中さんは、“ぼっこ”の「登場の意義は、ことぶき地区に初めて、集団的、組織的、日常的な活動が生まれた」と言われます。

中でも、寿生活館が設置された意味は大きく、そこを拠点に子供会、保健活動等様々な活動が展開されていきました。職員であった田中さんと故宇田知道さんが、定住（セツルメント）し始めたのはこの頃でありました。

60年代の保育・教育といった子どもを中心とする活動は、やがて住民運動へと向かいます。寿保健の会、り災者同盟の運動、寿しんぶん、夜間銀行設置促進会議、寿地区自治会

の結成等、60年代後半は住民パワーの結集を目指していきました。

70年代に入ると、労働運動、反差別運動、女性解放運動の影響が強くなっていきます。その中で寿共同保育、日雇労働者組合が生まれてきます。73年からのオイルショックは運動の転機となりました。日雇求人の激減によって困窮する住民が増えていくと、その対応として、寝食を共にする生活館3-4階の自主管理となっていき、この取り組みが80年5月まで5年半続いたそうです。とはいえ、自主管理状態を解くために、寿町内の諸団体が住民懇談会として集い、会議を重ね、寿町診療所、町内会館の建設などの成果を生んでいきます。

80年代は83年に起こった「浮浪者」連続殺傷事件を契機として、夜に野宿者を定期訪問する木曜パトロールの活動が始まっています。現在も、様々な団体が各々のパトロール活動を行っており、90年代以降は野宿者の急増とともに団体は増える一方です。

他方で、80年代以降現在まで、寿町では作業所などの通所施設、はまかぜなどの入所施設が少しずつ増えていきました。また近年は、住民の在宅生活を支える活動が活発になっており、医療と看護と介護の時代に入っていると特徴づけられます。

以上、報告の一部を簡単にまとめてみました。本報告では、寿町ドヤ街が誕生した1956年以来、寿町で展開された主な運動や町の動きが通史として描き出されており、非常に内容が濃く、改めて、冊子『寿町ドヤ街』等で転載させていただく予定です。ご期待下さい。

（編集部）

# “診療室から” (20)

## ことぶき「コンビニ」診療所???



「 ちょうだい、風邪薬もね、シップも欲しいなあ」

朝 9 時半に開くと同時に、このような会話が受付、診療室に飛び交います。そのうち、急患ですぐに病院搬送しなければいけない患者さんが飛び込んできて、午前中には処置・点滴室はすぐに一杯になってしまいます。待ちくたびれた患者さんが、「まだなのか」と怒鳴り散らしている声を聞きながら、平常心で診療を継続するのも日常茶飯事になってしまいました。もちろん、決していいことではありませんが...

最近、コンビニ化する夜間救急外来が問題になっています。しかし、ここでは以前よりコンビニ医療を目標としてやっていました。近くて安くて品揃えが豊富、それに加えて親切な店員がいる、そんなコンビニ欲しいですよ。気軽に行けて、敷居が低く、誰でも利用できて、なんでもみてもらえる、それがコンビニ診療所の目標です。それに加えて、待ち時間が短くて、診察もしっかりやってくれればということなのですが、現実はそのとはいかないことも多いです。

しかし、実際のところは、いろいろ問題があります。患者さんがどんどん増えてきて、待ち時間が長くなって大変です。一般のお店でも、待ち時間が長いところや、品揃えが悪いところ、料金が高いところは、お客さんも入りません。そんなお店のスタッフは、お客さんの苦情対応やレジうちで大忙しで、品物を揃えたり店内をきれいにしたりする時間がなくなります。そうなってくると、「安かろう、悪かろう」的になってしまい、賞味期限切れの品物が並んでしまうようになり、閉店に追いやられることは目に見えています。

これから、どのようにしてコンビニ医療を継続するかを模索しています。気軽に来れる反面、患者さんが殺到してしまうことで、医療の質が低下することは避けなければなりません。皆さんの叱咤激励を受けながら、最高のコンビニ医療を目指していければなあと考えております。 (天田 大輔)



夏

合

宿

今年で11回目をむかえた夏合宿は、8月18日から19日にかけて、東伊豆城ヶ崎海岸で行われました。伊豆は避暑・レジャーの地というのに相応しく、日々の仕事や活動を離れて、夏の数日とともに過ごしました。総勢23名で、ここ数年は、家族参加があり、にぎやかです。人数が多くなっていることもあって、今年から、近くのコテージも借りています。一部の人は前日の17日の深夜には現地到着。次の日、合流組を乗せて、イガイガ根、川奈海水浴場と遊びました。原さんは前日の車酔いを振りのけて、早朝から八幡野の通称「雑壇」で釣行し、メジナなどを持ち帰ってきました。土曜は、勤務を終えた、次の合流組が夕方に到着して、第1回目の学習会を行いました。田中俊夫さんから、1974年から約4年間寿の越冬斗争にも参加された、故・宮田国男医師（精神科）について報告がありました。北海道の原野に精神病院をつくり、治療共同体を目指した宮田氏の略歴とともに、遺稿集『希望としての精神科医療』の紹介がありました。夜は昼から作って置いたカレーを食べ、懇親会、花火、蓮着寺でのカニ取りで、夜はふけて行きました。



日曜は、朝から天田さんより、心肺蘇生の必要性とAED(救急救命用具で自動対外式除細動器の略)の使い方について実践的な講習会がありました。ドリンカーの生存曲線によれば、呼吸停止2分後に蘇生を開始すると90%くらいの確立で救命できる可能性があり、5分後になると25%にまで下がるとのことで、参加者はみな緊張感をもって体験しました。午後からは、八幡野で泳ぎ、盛り沢山の合宿を終え、帰路につきました。

今回海で一番泳いでいた、初参加の山本さんに合宿の思い出を書いていただきました。  
(編集部)

## 泳ぎました

初日に城ヶ崎海岸のイガイガ根という名所へ。タブの木や石楠花しやくなげの混じる林を抜けると急に視野が開け、岩場の隙間には痩せたつわぶき。俊夫さんはか細い凸凹道をどんどん歩き出し、後をよたよた追いかけると、突然断崖絶

壁の先端に。立ちすくみ半身で下を覗くと、打ち寄せる荒波が狭い隙間を走り抜け、岸壁にぶつかり砕け散り、強風にあおられ白いしぶきとなって噴き上げる、荒々しく雄大な景色でした。午後は川奈の海水浴場へ。子供たち

と一緒に浮き輪で泳ぎ、浜で身体の上に暖かい砂をかけて埋めました。

家に戻ると原さんが「釣れたー」「大漁だー」と大喜びでバケツに魚を入れて戻ってきました。皆で煮て食べました。

夜、アルコールが入ると、女の子の持ってきたゲーム機、ラブラブ度何パーセントの恋人相性診断の遊びにみんな巻き込まれて大騒ぎ。

翌日は八幡野の漁港へ。僕は海水パンツもなく、冬物の白い肌着のシャツに、ズボン下、軍手、軍足と珍妙ないでたち。波が高くて磯には行けず、船着場の中で泳ぎました。海中は濁って何も見えず。浮き輪で泳いでいた矢島さんを対岸の突堤まで引っ張って行きました。潜ると、海藻が生え、青い熱帯魚が群れで泳ぐきらきら輝く美しい別世界です。岩にへばりつく尻高や星型の貝を夢中で採ってはパンツとズボ

ン下の中に入れてました。帰りがたいへん。足を動かすと貝がずるずる落下し、引き潮で沖のほうへ流されそうになり、漁船が近づいてくるし、手をばたつかせておぼれそうに、海水も飲んでやっと辿りつきました。

昼食を食べていると、何と目の前で漁師さんが大きな籠いっぱい馬糞ウニ、サザエ、あわびを次々に海中に投げ入れています。地元の小学生が飛び込み取ってきてはかごに戻し海女さんの練習でした。「取り残しはないか。焼いて食べるとおいしそう」と横目で眺めていました。

取って帰って煮た貝は、あまりに小さく妻楊枝でも取れませんでした。

本当に楽しい夏合宿でした。

(山本 重則)

### 寿町地域ニュース・あらかると (2007年5月～11月)

【医療福祉】横浜市敬老特別乗車証(敬老パス)の見直し検討会が始まる('07.5) / 三都荘新館 1 階にデイサービスきららステーション開設('07.8) / 寿町に訪れたことがあり、AA やマックの設立などアルコール依存症者のために尽力されたジャン・ミニ神父が逝去('07.8.29) 【商店】センター1 階の平田商店が閉店('07.5) 【環境】センター敷地内での飲酒禁止の看板設置('07.7) 【メディア】NHK 教育・福祉ネットワーク「シリーズ社会起業家の挑戦“ヤド”で街を変えていく～横浜寿地区・ホステル事業の取り組み～」NHK 総合・にっぽんの現場「三畳一間に向き合う～横浜寿地区～」放映('07.9) 【簡易宿泊所】幸福荘エレベータ設置('07.10) / 扇荘改装中('07.10) 【娯楽】白亜の巨大な場外舟券売場が建設完了間近('07.11) 【住宅困窮】厚労省「ネットカフェ難民」数を約5,400人と推計('07.8) 【防災】防災パレード・コンサート('07.10) (寿町関係資料室)



# 診療所日誌

## 2007年6月~2007年10月

6月 精神科の入院相次ぐ。内科合併症の病院探しは難しい。

6月1日 デイケアNさん、断酒3周年祝い。レイと手作りフエルトケーキでお祝い。

6月3日 戸塚中央病院、有馬病院へ病院訪問

6月8日 救急隊が患者さんを救急扱いにせず診療所へ置き去りに。後日、謝罪に来る。

6月14日 学習会「寿町の歴史 概略寿町運動史」(講師：田中俊夫)

6月21日 「診療所だより23号」発送

6月27日 昨日まで働いていたという現役の労働者、歩行困難で受診、入院となる。ギリギリまで自力で頑張っていたようだ。

7月 週末DOTS、帳場さんへの依頼増える。

7月4日 宇田知道さんのお姉さん見える。

7月7日 表西さん、デイケアのボランティアとして毎週土曜日に来てくれることになる。

7月28日~30日 デイケア、稲子で川遊び&バーベキュー。初めてマイクロバスで行きました。キャンプファイヤーも行う。

7月31日 心電図、AED入る。

8月 今年も猛暑で点滴の多い夏です。ベッドが足りず、椅子に座っての点滴も・・・。

8月18日~19日 夏合宿(於：伊豆城ヶ崎海岸)初めてロッジも借りる。

8月22日 診療所の夏休みにあたり、プラザ・コスモス・ことぶき介護・アルク・帳場さん・担当CWさんなど、方々でDOTSの依頼を行う。

8月31日 警察から、拘留されたという電話3件。患者Kさん、断酒6ヵ月記念の焼肉パーティー開催。

9月 医師、看護師の公募を行う。

9月9日 診療所床掃除。デイケアのメンバーさんの就労の一環として。

9月12日~15日 富山大学医学部の学生さん7名が実習にみえる。ヘルパーさん、訪問看護師さんなどと一緒に町をまわる。

9月13日 患者数最高。247名でした。

9月22日 公園の草刈機導入

9月25日 訪問歯科、初めて利用する。

10月 受診者数200名を毎日のように超え、待ち時間を長くさせてしまっています。

10月5日 心療内科の土屋医師、毎週金曜日勤務。往診をしているSさん、自室で点滴を行う。

10月17日 デイケアのIさん、再入院となる。以後、毎日お見舞いへ。

10月18日 第6回診療所大運動会開催。100名近い参加者あり。

10月26日 「寿町ドヤ街3号」発送。

(矢島 雅子)

### <<< 読者のみなさんへ >>>

この“だより”は、今年12歳。松影町にある、待合室ですいすいとオイカワが泳ぐ診療所と同じ背丈で、一緒にすくすくと育ってきました。やっと小学校を卒業しそうな年頃となり、多感で、いろいろと興味が増えていきます。マンネリ気味ではなかるうかとか、もっと伝えることがあるのじゃないのか…。やっぱり、料理でも、楽曲でも何でも、作ったものはわずかも感想を聞きたくなるものです。

そこで...ひとつ。一つと言わず、二つでも三つでも、みなさんに、紙面の感想を寄せていただくと、この上なき幸せと存じます。身の回りの近況も付け加えてくださると尚うれしいです。お手柔らかにどうぞ。

(編集部)

# 医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**  
**整形外科 鍼灸**

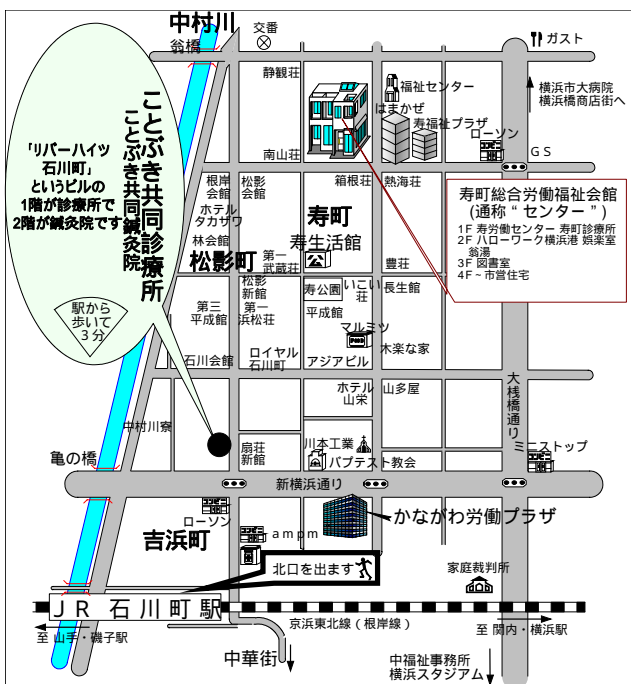
## 診療所

	9時30分	12時	14時	17時30分
月	休 診			
火	田中・鈴木伸・天田	昼 休 み	田中・鈴木伸・天田	精神科・神経科・内科
水	越智・天田・鈴木美		越智・天田	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木伸・大脇		田中・鈴木伸・大脇	精神科・神経科・内科・整形外科
金	鈴木伸・天田・土屋		越智・天田・土屋	精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・三橋	整形外科・精神科・神経科・内科		

## 鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時45分	13時	14時	18時
火	新 井	昼 休 み	新 井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新 井		新 井	
金	新 井		新 井	



### 保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援(その他、医療福祉相談も受け付けています)

### 心理判定(隔月1回)

### 寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

### 共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17  
リバーハイツ石川町 1・2F

### でんわとファックス

(045) 651-2305

e-mail info@kyoudouclinic.com

### ホームページ

http://kyoudouclinic.com

2007年11月24日現在